

撮影スタイル一考

2015年1月18日

閉伊川沿いを帰る途中、橋梁工事現場を通り過ぎるとき法面のオジロワシを見つける。9時14分、① 堰堤入口で1枚写す。

12時半、オオワシが止まっているのを走行中に見つけ埠頭に着く。先着の一人も気づいていた。魚市場は休みでトロール船は繫留されている。

フォークや人影がないため直進し、昨日と同じ160㍍ほどの場所まで近づく、② 1枚写す。

こぼれ魚がないから当分動かないだろう。その場でメンバーに知らせよう、二人目のとき飛んだ！ どうして？

戻って行先を聞くと、竜神様の食事処にいるという。魚を岸壁に置いたら3回目にスイを掴んだという。

13時11分、対岸に着く。300㍍先、松の枝で見え隠れに食事しているのを見つける。36分、飛び出して月山頂上の次に並ぶアンテナを越えてから中腹に消えた。

埠頭に戻るとカメラマン三人いた。私のすぐ後に来た人が持ち込んだ魚をまいたらしい、一人は間に合わなかったようだ。

夜、情報交換を他港の知人とする。そこまでして写真撮りたい！ コンクリートでエサ捕りさせて、爪をいためたらどうする、注意された。

地元でカメラマンが増えたのはワシの魅力が一番だろう、最初から撮影している私にも責任ある？ 撮影スタイルも機材しだいで変わる、やもう得ないと思っていた。カメラマン自身が撒いたことはないと思っている。

ウミネコが啜え捕る以外に、漁業関係者が不用魚を海に撒くことはある。それをウミネコが取り合いする、沈んだものをウミウが拾う、水面でウミネコに横取りされる。回り回ってワシのエサになっている。しかたないことと思っていた。

海面は沈むので陸に置いたのだろう、カメラマンが置いたのは初めてだ。続くようならカメラマンの置き餌は撮影しないと決めた。海上はどうする、困った！



①



②